

ガステーブル火災に注意しよう

平成27年中の火災4,430件（治外法権火災3件を除く。）のうち、「ガステーブル等¹⁾」による火災は主な出火原因の第三位ですが、住宅火災²⁾1,675件の出火原因では第一位でした。ガステーブル等は例年、火災の原因の上位を占めています。

身近な調理機器であるガステーブル等は、日常的に使用することから火災に繋がるという認識が薄れがちですが、延焼火災に至る火災も多く発生しています。

ガステーブル等からの火災を防いで身近な火災から身を守りましょう。

※ 1) ガステーブル等とは、ガステーブル、ガスコンロ、ガスレンジ及び簡易型ガスコンロをいいます。

2) 住宅火災とは、住宅、共同住宅、寄宿舍及び複合用途の住宅部分から出火した火災をいいます。

1 住宅火災におけるガステーブル等の火災状況

◆ 火災件数

過去5年間の住宅火災の主な出火原因を年別にまとめました（表1）。平成27年中の主な出火原因をみると、最も多いのが「ガステーブル等」の429件で、毎年、ワースト1になっています。

住宅火災におけるガステーブル等の火災は最近5年間で2,008件、死者は31人発生しています。火災件数は、減少傾向で推移していますが、火災による死者は増減を繰り返しており、最近5年間では年平均5人以上の死者が発生しています。



ガステーブルの焼損状況

年 別	主 な 出 火 原 因												
	合 計	ガステーブル等	たばこ	放 火	電気ストーブ	ロウソク	コンセント	コ ー ド	電気こんろ	石油ストーブ等	火 遊 び	そ の 他	
平成 23 年	1,864	395	329	250	103	49	47	33	40	27	26	565	
平成 24 年	1,916	409	334	255	106	53	49	44	33	28	16	589	
平成 25 年	1,777	388	316	257	99	47	37	28	25	27	19	534	
平成 26 年	1,694	387	297	205	95	50	23	26	32	20	8	551	
平成 27 年	1,675	429	274	162	70	38	30	28	24	14	14	592	
27 年 内 訳	共同住宅等	1,059	287	196	122	46	24	9	14	22	3	10	326
	住宅	616	142	78	40	24	14	21	14	2	11	4	266

表1 住宅火災の主な出火原因の状況

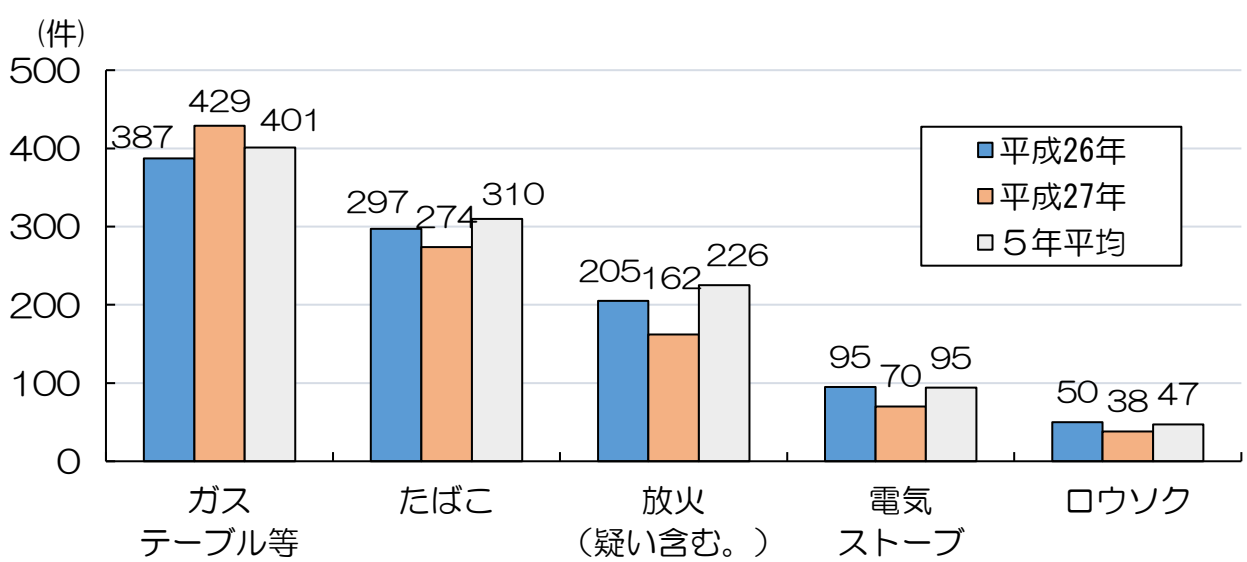


図1 住宅火災の主な出火原因別の状況 (上位5位)

◆ 火災に至った経過

最近5年間の住宅火災におけるガステーブル等による火災の火災に至った経過をみると、調理中にその場を離れたり、調理後に火を消し忘れる「放置する・忘れる」が最も多く、約5割(49.1%)を占めています(表2)。

また、死者の発生した火災の経過をみると、ガステーブル等の周囲の可燃物や着ている衣類に着火する「可燃物が接触する」、「接炎する」が多く発生しています(表3)。

ガステーブル火災の主な経過	件数
放置する・忘れる	985
可燃物が接触する	239
接炎する	202
引火する	164
過熱する	107
誤ってスイッチが入る(入れる)	81
考え違いにより使用を誤る	76
可燃物が沸騰する・あふれ出る	25
可燃物が落下する	25
伝導過熱する	22
可燃物を置く	17
放射を受けて発火する	15
本来の用途以外の用に用いる	7
可燃物が転倒する	5
火源が接触する	4
蓄積過熱する	4
その他	13
不明	17
合計	2,008

表2 主な出火に至った経過

死者が発生した火災の主な経過	件数
可燃物が接触する	13
接炎する	10
放置する・忘れる	3
伝導過熱する	1
本来の用途以外の用に用いる	1
不明	2
合計	30

表3 死者が発生した主な経過

◆ ガステーブル等の火災による死者

最近5年間の住宅火災におけるガステーブル等の火災による死者は、最近5年間で死者31人が発生しており、このうち着衣着火による死者は15人(48.4%)で、男性10人、女性5人のすべてが高齢者で、着衣着火による死者の高齢者の割合は100.0%になります(表4)。

最近5年間のガステーブル等の火災による死者31人を、男女別、年齢区分構成別でみると、男女別では



ガステーブル等による着衣着火の実験状況

男性が6割以上(67.7%)を占めており、年齢区分構成では高齢者が7割以上(77.4%)を占め、高齢者の男性が15人(62.5%)で最も多く発生しています(表5)。

年別	ガステーブル等の火災件数	ガステーブル等の火災による死者	ガステーブル等の着衣着火による死者
平成23年	395件	5人	3人
平成24年	409件	9人	1人
平成25年	388件	6人	4人
平成26年	387件	5人	3人
平成27年	429件	6人	4人
合計	2,008件	31人	15人

表4 最近5年間のガステーブル等による着衣着火火災状況と死傷者数

年齢区分	男	女	計	構成比(%)
未成年	-	-	-	-
成人	6人	1人	7人	22.6
高齢者	15人	9人	24人	77.4
合計	21人	10人	31人	100.0
構成比(%)	67.7	32.3	100.0	-

注 未成年：0～19歳 成人：20歳～64歳 高齢者：65歳以上

表5 最近5年間のガステーブル等の火災による死者の状況

2 天ぷら油火災の状況

「天ぷら油火災」とは、ガステーブル等を使用し、天ぷらやフライ等の揚げ物の調理に起因して「放置・忘れる」、「沸騰する・あふれ出る」などの経過(器具の誤操作等を除く。)により、調理用の動植物油から出火して火災となった住宅火災をいいます。なお、凝固剤に関する火災も含まれます。

◆ 火災件数

ア 年別火災状況

最近5年間の天ぷら油火災の火災状況を見ると、天ぷら油火災は減少傾向で、平成27年中の発生件数は133件で前年と比べて7件の増加となっています(表6)。



台所の焼損状況

年 別	建 物 火 災					損 害 状 況				
	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	焼 損 床 面 積 (m ²)	焼 損 表 面 積 (m ²)	損 害 (千 円) 額	死 者	負 傷 者
平成 23 年	142	2	3	27	110	327	249	43,825	-	63
平成 24 年	141	-	2	16	123	157	62	32,574	-	54
平成 25 年	139	3	-	26	110	554	120	70,111	-	60
平成 26 年	126	2	2	13	109	446	320	68,631	-	55
平成 27 年	133	3	2	22	106	627	354	93,030	-	55

表6 天ぷら油火災の年別状況

イ 初期消火状況

平成 27 年中の天ぷら油火災の初期消火従事率(火災件数に対する初期消火従事件数の割合)は 95.5%と火災全体の初期消火従事率(61.8%)と比較すると高くなっています。天ぷら油火災では、行為者が火を使っているという意識があることや、火を使っている場所の近くにいることが多く、住宅用火災警報器などの鳴動、煙や物音、臭いなどで火災に早く気づき、初期消火に従事することが多いのが特徴です。

また、平成 27 年中に住宅用火災警報器が鳴動した天ぷら油火災は 37 件発生し、このうち 30 件(81.1%)がぼやで消し止められています。

ウ 死傷者の状況

平成 27 年中の天ぷら油火災での死傷者の状況をみると、死者の発生はなく、負傷者は 55 人発生しています。負傷者 55 人のうち初期消火中の負傷者は 25 人(45.5%)となっており、水をかけて消火するなど不適切な消火方法や火のついた鍋を運び出そうとして床に落としたりするケースが多いのもこの火災の特徴です。

エ 調理油過熱防止装置

平成 27 年中に発生した天ぷら油火災 133 件のうち、発火源がガステーブルの火災は 103 件(77.4%)で、全体の約 8 割を占めています。ガステーブルでの天ぷら油火災を未然に防ぐ有効な手段の一つとして、「調理油過熱防止装置」があげられます。これは、バーナー中心部のセンサーが鍋底の温度を感知し、約 250℃になると自動的にバーナーを消火して油の発火を防ぐものです。

発火源がガステーブルの火災 103 件のうち、57 件(55.3%)が「過熱防止装置」有のガステーブルで出火していますが、そのうちの 56 件(98.2%)は「過熱防止装置」が付いていない側のこんろを使用したため発生した火災となっています。「過熱防止装置」が付いている側のこんろで火災になる例としては、冷凍食材等が鍋底中央に接していて温度検知ができなかった。調理油が少量で急激に加熱された、センサーや鍋底に油かすが付着していたなどが挙げられます。

平成 20 年 10 月から、家庭用ガスこんろ（カセットこんろを除く。）を「ガス事業法」及び「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」によって規制対象製品に指定し、全てのバーナーに「調理油過熱防止装置」及び「立ち消え安全装置」の設置を義務化し、安全性の強化が図られています。

オ 時間別発生状況

最近 5 年間の天ぷら油火災 681 件のうち、出火時間が不明の 7 件を除いた 674 件の時間別の火災状況をみたものが図 2 です。出火した状況をみると、17 時～18 時台、19～20 時台の時間帯に 100 件を超えています（図 2）。

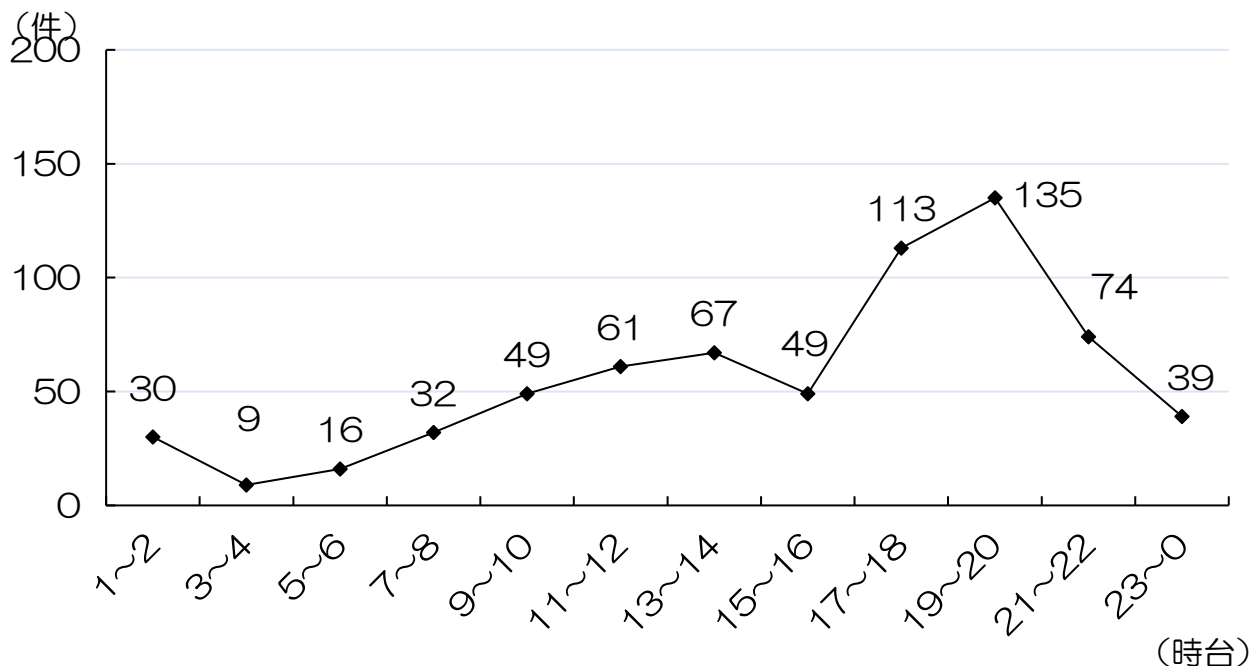


図 2 時間別の火災状況（平成 23 年から平成 27 年までの累計）

◆ 行為者と出火理由

ア 年齢別発生状況

平成 27 年中の出火時の行為者の状況をみると、「住宅」では 65 歳以上が 11 件 (28.9%) と最も多くなっている一方、「共同住宅等」では 20 歳代が 31 件 (33.0%) と最も多くなっており、住宅よりも共同住宅等では、比較的若い単身者や夫婦のみの世帯が多いためと考えられます（表 7）。

出火用途 (単位：件)	年 齢 区 分								
	合計	15歳以下	16歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
合計	132	4	6	36	15	29	12	5	25
共同住宅等	94	4	5	31	9	20	7	4	14
住宅	38	-	1	5	6	9	5	1	11

※ 年齢不明 1 人を除く。

表 7 平成 27 年中の用途別年齢別発生状況

イ 用途別出火理由

平成 27 年中の天ぷら油火災のうち、経過が「放置する・忘れる」により出火した 117 件について、出火理由をみてみます（表 8）。

出火に至った理由は、「他の部屋で仕事をした」が 17 件（14.5%）、「寝込んだ」が 16 件（13.7%）、「テレビを見た」が 15 件（12.8%）などとなっており、油が温まるまでの間に少しだけ家事をしたり、テレビを見たりしてその場を離れている傾向があります。

出火用途 (単位：件)	合計	他の部屋で仕事をした	寝込んだ	テレビを見た	食事をした	その場を離れて雑談した	外出した	他の部屋で片付け物をした	その場を離れて子供の世話をした	洗たくをした	電話に出た	用便にいった	来客があった	掃除をしに外へ出た	その他
合計	117	17	16	15	12	11	5	5	4	3	2	2	2	1	22
共同住宅	82	8	11	13	9	6	2	5	4	3	1	2	-	-	18
住宅	35	9	5	2	3	5	3	-	-	-	1	-	2	1	4

表 8 用途別出火理由

◆ 天ぷら油火災の事例

事例 天ぷらを加熱中、その場を離れたため出火した火災（10月・足立区）			
構造・用途等	耐火造 6/0 共同住宅	出火階・箇所	4階・台所
焼損程度	建物部分焼1棟 天井2㎡、内壁1㎡、レンジフード1台等焼損		
<p>この火災は、共同住宅の4階台所から出火したものです。</p> <p>出火原因は、火元者（50歳代男性）が昼食の準備をするため、天ぷら鍋に天ぷら油を入れガステーブルで加熱中にその場を離れ、隣室で休憩していたため、時間の経過とともに天ぷら油が過熱し出火したものです。</p> <p>火元者が5分程度隣室で休憩し、台所へ戻ると、天ぷら鍋から炎が立ち上がっているのを発見しました。</p> <p>その後、火元者は長男（10歳代男性）に粉末消火器を持ってくるように指示し、長男が持ってきた粉末消火器で初期消火を実施しました。その際、長男は廊下の非常ベルを押しました。</p> <p>通報は、火元建物の隣の建物で勤務している会社員（50歳代男性）が非常ベルの鳴動を聞き外へ出たところ火元建物から白煙が見えたため、会社の電話で119番通報しました。</p>			

ガステーブル等による火災を防ぐポイント

- ガステーブル等の火気を使用している時はその場を離れず、離れる際は短い時間でも火を消しましょう。
- ガステーブル等の周囲は整理整頓し、可燃物などの燃えやすいものは近くに置かないようにしましょう。
- ガステーブル等の周囲に付着している油や食品は拭き取りましょう。
- ガステーブル等の上には一時的でも、物を置かないようにしましょう。誤ってスイッチが入ったりして火災に繋がる恐れがあります。
- 調理をする時は、着ている衣服の袖や裾に燃え移らないように注意しましょう。